

みどりGXビジョン

～持続可能な食と農のための政策提言～

2026年3月18日
日本農業新聞
みどりGXラボ

みどりGXラボは、多様な主体の連携で「持続可能な食と農」の実現を目指すコンソーシアムとして活動しています。設立2年目となる2025年度は、生産現場の関心の高い有機農業と気候変動への適応策を重点テーマとし、セミナー・会員交流会での有識者の講演や実践事例の報告を基に、課題解決の手法を探りました。また、兵庫県豊岡市でのコウノトリの野生放鳥20周年を記念した「全国コウノトリサミット」を同市で開き、生物と共生する農業の重要性を発信しました。

これらの活動で得られた意見や課題をまとめ、以下の通り、提言します。

記

1. 有機農業、減農薬・化学肥料

- (1) 全ての都道府県で、希望すれば、普及センターや農業大学校などで有機農業の専門的指導が受けられるよう、体制を整備すること
- (2) 「みえるらべる」の認知度向上などを通じ、環境や生物多様性の保全に配慮した農産物の付加価値向上や、消費者が選びやすい環境を整備すること
- (3) 国際有機農業運動連盟（IFOAM）が主催する有機世界大会の日本開催を誘致すること

2. 気候変動への適応策

- (1) 公設試験研究機関において、気候変動に適応した生産技術や品種の開発を加速させるとともに、実践に向けてその成果を産地に的確に周知すること
- (2) 気候変動に適応する新たな生産技術や資材の導入に対し、導入の適否を検討する試験の段階から利用しやすい支援策を設けること
- (3) 気候変動の影響や対策によって農畜産物の生産コストが上昇している実態について、消費者の理解を深めること

3. 生きものと共生する農業

- (1) 生きものと共生する農業の意義を分かりやすく発信し、産地と消費者の双方の理解を深め、取り組みの機運を高めること
- (2) 次世代への理念や取り組みの継承を促すため、後継者・新規参入者の育成や産地間の交流を後押しすること